

アグリワークポイント AGRIWORKPOINT

米

米づくりは苗半作

農業経営支援課 渡辺 彰人



は種時のポイント

- ① 「宇部粒状培土」を使用しましょう。
- ② は種前は、たっぷりかん水しましょう。
- ③ 品種ごとに、は種の適正量を守りましょう。
※1箱当たりのは種量は水稻栽培曆に記載しています。
- ④ 機械を使いできるだけ均一には種しましょう。
- ⑤ 種子が完全に隠れるまで覆土し、その後のかん水は行わないようにしましょう。

生育ステージごとの最適管理

① 出芽時の温度管理に注意

- 出芽温度が32℃を超えると高温障害や徒長苗の原因となります。
- ・ 高温になりそうな好天日は早めの換気をし、ビニールハウスやトンネル内の温度上昇を防ぎましょう。
 - ・ 温度計は育苗箱のふちに置かず、必ず床土の温度を測るようにしましょう。
- ##### ② 適切な水管理
- ・ 緑化期（1.5葉期）までは、1日1回、午前9時以降にかん水を行いましょ。
 - ・ 硬化期（1.5葉期以降）は、午前1回、午後3時前に1回行いましょう。
- ※夕方のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょ。
- ※曇りの日や雨の日は極力かん水を控えましょ。

- **むれ苗**：発芽後、異常な低温（4℃以下）の後の晴天や高温により蒸散が盛んになると発生します。葉が急に巻き、蒸れてよれたようになりやがて枯れてしまします。日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう温度管理に注意しましょ。

- **育苗中の病気対策**：種子及び資材消毒の徹底、は種時または発芽後にタチガレエース液剤を散布しましょ。予防剤なので症状が出る前に使用して下さい。